

管 斌さん / 東京学芸大学
Ms. Guan Bin / Tokyo Gakugei University

<外国人研究者 プロフィール Profile>

国籍: Nationality:	中国 / China
日本留学時の滞在期間: Period of Stay During Studying in Japan:	1999年4月-2004年3月 Apr 1999 - Mar 2004
日本留学時の大学: Educational Background In Japan:	東京学芸大学修士課程 Faculty of Education Tokyo Gakugei University
専攻分野: Major Field:	教育学 Pedagogy
現在の所属/職位: Present Institution/ Status:	上海财经大学国際文化交流学院教師 Assistant Professor



管 斌さん
Ms. Guan Bin

<研究報告 Follow up Research Fellowship>

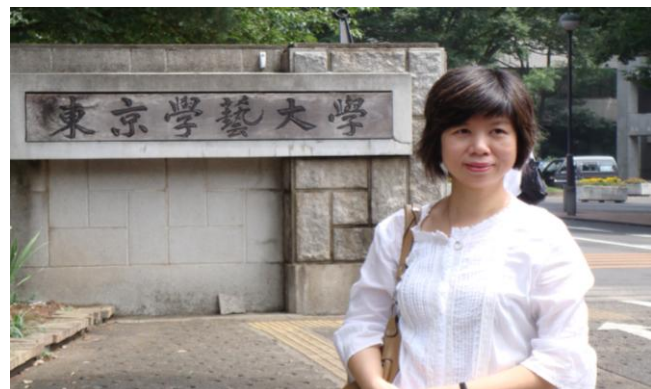
受入研究者氏名: Research Adviser:	渋谷英章教授 Professor Hideaki Shibuya
受入れ期間: Researching Period:	2010年6月25日-2010年8月30日(67日) Jun 25, 2010 - Aug 30, 2010
研究課題: Theme of Research:	日本の大学における学士課程カリキュラム改革に関する 研究——1999年「大学設置基準」大綱化以降

■研究概要 Outline of Research

日本における学士課程カリキュラム改革の動向を把握し、その改革の理論を踏まえながら、大学におけるカリキュラム改革の実践を考察する。主に、以下の点について考察するものである。

(1)進化してきた大学教育大学教育改革のうち、「学部一貫教育体制」に焦点を合わせて、学士課程カリキュラムの内容の改善の動きを概観する。その中で、特に教養教育と専門教育の関係及び両者融合の方法、コアカリキュラムの構築、初年次教育プログラムの開発などについて考察する。

(2)大学における教育方法(シラバス、 Semester制、TA制度、キャップ制など)の改善の動き及びその有効性について考察する。



■研究成果 Result of Research

滞在中、桜美林大学大学教育研究所(馬越徹教授)、名古屋大学高等教育研究センター(近田政博准教授)、金沢工業大学基礎教育部(藤本元啓教授)、神戸大学大学教育推進部(川嶋津津夫教授)の研究室を訪問した。著名な研究者と直接会って、カリキュラム改革の内容に加えて、その改革のプロセスとカリキュラム改革による成果、今後の課題を含め、インタビューによって具体的な検証ができた。

高等教育のユニバーサル化の進行に伴い、多様な学生が高等教育に進学するようになる一方で、卒業時の質保証が求められるようになり、入学した学生を大学教育に適応させ、円滑な移行を図り、中退などの挫折を防ぐ上で、初年次教育が効果的である。今回の滞在中、近年日本の大学における初年次教育に力を入れて考察した。特に以下のことを確認した。

(1)日本の大学における初年次教育プログラムの内容、その有効性や問題点。

(2)日本の大学がほとんどは専門学部から成り立っているから、日本型初年次教育の特徴として専門分野に結び付いた内容で実施されている。

(3)「課題探求能力の育成」、「豊かな学習経験の創出」のために、初年次教育の役割とあり方。帰国後、初年次教育プログラムの開発、授業の効果、教育力の醸成などに関して具体的な例を分析し、より深い研究を続けていきたい。

■日本留学の思い出 Memories of Studying in Japan

同じアジアで、同じ長い歴史を持ち、文化伝統に近いところがたくさんある日本から、教育学の角度で中国はどういう面で学ぶことができるか、私が強い関心を抱いて日本に留学を決意した。その5年間のおかげで、先生たちから色々なことを教えていただき、学術の面だけではなく、精神上にも成長したと思う。今回、帰国外国人留学生短期研究制度を利用し、東京学芸大学の渋谷先生をはじめ訪問先の先生たちから日本における大学改革への分析を聞くことができ、最新の資料も入手し、今後の研究には大変役に立つと思う。